

県民健康増進支援センターを「地域健康科学センター」へ改称

— 科学的根拠に基づく地域の健康づくりを推進 —

令和 8 年 7 月より改称し、新たな体制で活動を開始します。

■これまでの取り組み

当センターは平成 26 年 4 月の開設以来、奈良県および市町村と連携し、健康増進事業の支援や予防医学に関する研究・教育活動に取り組んできました。

自治体の各種調査への助言、健康関連データの分析支援、研究成果の情報発信、行政計画や保健事業への相談対応などを通じて、科学的根拠に基づく地域の健康づくりを推進し、地域住民のセルフケア向上に寄与しています。

■主な研究成果

「健康長寿」を主要テーマとして、大規模コホート研究や公的統計を活用した疫学研究を継続的に実施し、社会参加や定期的な歯科受診と健康長寿との関連等を示してきました。また、新型コロナウイルス感染症に関する研究では、保健師数と COVID-19 罹患率の関連や、コロナ禍における睡眠休養感の変化などの知見を発信しました。

■改称の目的

今回の改称は、これまで蓄積してきた研究成果と地域支援機能を発展させ、地域の健康課題に対しより科学的・総合的・実践的に対応する体制を構築することを目的としています。地域の健康課題の把握、施策立案、効果検証まで一体的に担う「実践型研究拠点」としての役割を強化します。

■新体制の特徴

行政経験を有する保健師を配置し、疫学・予防医学の科学的専門性と現場の実践知を研究に融合させた体制を整備します。これにより、自治体等の実務に即した助言や、実効性の高い保健施策の評価・立案支援を進め、質の高い研究体制のさらなる充実強化を図ります。

■今後の展開

奈良県の保健・医療・介護に関する健康データの長期的な集約と疫学的分析、保健事業の評価や政策支援、調査への助言、人材育成、情報発信を一層強化します。今後も、奈良県および市町村、関係機関と連携し、科学的根拠に基づく地域の健康施策を支援し、地域住民の健康維持・増進と疾病予防に貢献してまいります。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

公立大学法人奈良県立医科大学

総務広報課 小走 (〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840 番地)

0744-22-3051(代表)内線 2215 メール: koho@naramed-u.ac.jp

地域健康科学センター 富岡 (〒634-0813 奈良県橿原市四条町 88 番地)

0744-22-3051(代表) メール: healthsupport@naramed-u.ac.jp

本資料では、改称の背景、これまでの研究成果、新体制の概要を詳しく紹介します。

本資料のポイント

- 県民健康増進支援センターを、令和8年7月より「地域健康科学センター」へ改称します。
- 新体制では、行政に精通した保健師を配置し、疫学・予防医学の科学的専門性と保健師の実践的知見を生かした支援体制を強化します。
- 奈良県の保健・医療・介護に関する健康データの分析、地域の健康課題の整理、政策実施後の効果検証、行政・関係機関への相談支援をさらに推進します。
- これまでの研究成果を地域へ還元し、県民の健康寿命の延伸、疾病予防、健康格差の縮小に貢献していきます。

■ 改称の目的

今回の改称は、これまでの活動実績を基盤として、地域の健康課題に関する研究、健康データの疫学的分析、行政・関係機関への支援、研究成果の情報発信をさらに充実させ、科学的根拠に基づく地域保健施策の推進に一層貢献することを目的とするものです。

■ 背景

県民健康増進支援センターは、平成26年4月、奈良県および市町村が実施する健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりに関する適切な情報や研究成果を提供し、地域住民のセルフケアを支援することを目的として開設されました。

奈良県では、地域によって人口構成や高齢化の状況、社会資源の配置などに違いがあり、地域の実情に応じた健康づくりの推進が重要です。当センターでは、県や市町村が実施する調査への助言、健康関連データの分析支援、行政計画や保健事業に関する相談支援、研修会への講師派遣などを通じて、地域に根ざした健康づくりを支えてきました。

また、研究課題の中心に「健康長寿」を掲げ、地域住民を対象とした疫学研究や、公的統計データを活用した研究を継続してきました。得られた知見は、県や市町村への還元に加え、学会発表や論文公表、広報活動を通じて社会へ発信してきました。

■ これまでの主な研究成果

分野	主な研究内容	示された知見
健康長寿	地域在住高齢者を対象とした大規模コホート研究	社会活動、趣味・生きがい、定期的な歯科受診などが、健康寿命の延伸や要介護リスクの低減に関連する可能性
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	オープンデータ・公的統計データを活用した分析	保健師数と罹患率、ワクチン接種体制と地域の医療・行政資源の関係、睡眠休養感への影響に関する知見
高齢者の生活習慣	インターネット利用、口腔衛生習慣、運動習慣	コロナ禍の要介護リスクや心身の健康に関連する可能性

当センターでは、地域高齢者の健康長寿に関連する要因を明らかにするため、奈良県内自治体の地域在住高齢者を対象とした大規模コホート研究を実施してきました。その結果、社会活動への参加、趣味や生きがい、定期的な歯科受診などが、健康寿命の延伸や要介護リスクの低減に関連する可能性を示してきました。

新型コロナウイルス感染症に関する研究では、オープンデータを用いた都道府県単位の分析により、人口当たりの保健師数が多い都道府県では COVID-19 の罹患率が低いことや、迅速なワクチン接種には地域の医療・行政資源が関係することなどを示し、新興感染症に強い保健医療体制を考えるうえで重要な知見を発信してきました。また、国民生活基礎調査のデータを用いた研究では、コロナ禍において日本人の睡眠休養感が改善されたことを示しました。

さらに、地域高齢者を対象とした研究では、インターネットを使用する高齢者や口腔衛生習慣が良い高齢者ではコロナ禍における要介護発生リスクが低いこと、運動習慣は身体的健康に良い影響を与える一方、精神的健康との関連には男女差がみられることなどを明らかにしてきました。

■ 新体制の概要

新たに発足する「地域健康科学センター」では、これまでの研究・支援活動を継承しつつ、地域の健康課題に対する科学的アプローチをさらに推進します。

新体制では、行政に精通した保健師を配置し、疫学専門医等と連携することで、研究機能と実践支援機能の双方を強化します。

機能	主な内容
研究・データ分析	地域健康課題の研究、健康データの長期集約、疫学的分析、調査結果の評価支援
行政・関係機関支援	調査支援、政策実施の効果検証、PDCA 支援、行政計画策定支援
情報発信・人材支援	医療・保健・介護関係会議への参画、研修会講師派遣、研究成果やデータ分析結果の情報発信、広報誌「Health Letter」等による情報提供

主な活動内容

1. 地域の健康課題に関する研究活動
2. 奈良県の保健・医療・介護に関する健康データの長期集約と疫学的分析
3. 地域の健康に関する調査結果の疫学的分析・評価支援
4. 行政や健康関係組織団体が行う調査への支援
5. 政策実施の効果検証や PDCA に向けた分析支援
6. 医療・保健・介護関係会議への参画、研修会講師派遣
7. 各種行政計画策定にかかる評価・分析支援
8. 効果的な保健事業の実施に関する相談助言
9. 研究成果やデータ分析結果の情報発信
10. 広報誌「Health Letter」等による地域への情報提供

これらの取り組みにより、地域の健康課題の整理と解決策の提案、保健施策の効果的な推進に資する科学的根拠の提供、シンクタンク機能の強化を図ります。

■ 今後の展望

地域健康科学センターは、県や市町村、医療・保健・介護関係機関、地域の関係団体と連携し、地域住民一人ひとりの主体的な健康維持・増進と疾病予防を支援していきます。

また、これまで蓄積してきた疫学研究の知見と、保健師の実践的知見、行政支援の経験を組み合わせることで、地域の実情に即した健康づくり施策の立案、実施、評価に貢献します。

奈良県立医科大学は、今後も地域に根ざし、地域とともに歩む大学として、科学的根拠に基づく健康長寿社会の実現に向けた研究と社会貢献活動を推進してまいります。

■ 参考：用語説明

用語	説明
健康長寿	単に長生きするだけでなく、できる限り自立した生活を送りながら、心身ともに健康な状態で年齢を重ねることを意味します。
疫学研究	集団における健康状態や疾病の発生状況を調べ、その要因を明らかにする研究です。地域の健康課題を把握し、効果的な予防策や保健施策を考えるための基礎となります。
睡眠休養感	睡眠によって、朝起きた時にどれだけ体が休まったと感じられるかを示す主観的な睡眠の質の指標です。